

千代田区都市計画マスタープラン改定
分野別まちづくり等の素案検討①
【B.土地利用＋分野別検討資料】

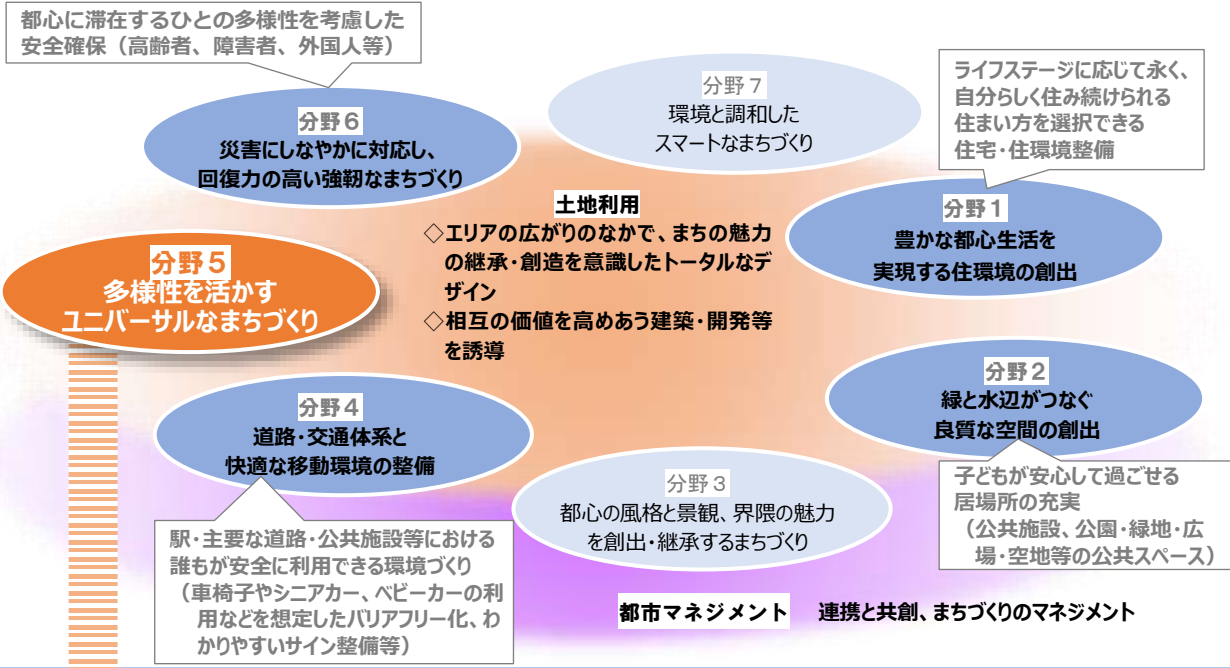
〔分野5〕
多様性を活かすユニバーサルなまちづくり
たたき台

将来像
つながる
都心

○人生100年時代に先駆けて、多様性を受け入れ、やさしさにあふれたユニバーサルなまちで自分らしく活動的に暮らせる

▷地方や世界から選ばれる都心のグローバルな価値を生み、一步先の未来を発信しつづけている

分野を超えた連携



方針1：都心に滞在するひとが多様なスタイルでつながり、自分らしく、いきいきと活動・活躍できる環境をデザインしていきます

方針2：人生100年時代を見据え、家庭や地域で自分らしく暮らし続けられる環境を充実させていきます

方針3：都心ならではの豊かな環境を活かして、子どもの成長を応援する環境を充実させていきます

● 分野 5 ●

多様性を活かすユニバーサルなまちづくり

未来へのまなざし

障壁のない多様な活動と交流

子どもや高齢者、障害者を含む全ての人にとって暮らしやすい住宅整備、まちの環境や駅、みち、住宅・施設の整備が一定程度進んできたなかで、子どもやファミリー層の増加、高齢化の進行などの見通しやニーズを踏まえて、安心できる居場所があり、おでかけがしやすく、社会とのかかわりをもちながら、自分らしく生活・活動できる環境を充実させていきます。

イメージ写真

駅とまちをつなぐバリアフリールート

多様な人が安心してすごせる、まちのなかの居場所

気軽におでかけできる環境

子育て、医療や地域包括ケアなど、

住み慣れたまちで永く暮らせる環境

また、都心には、外国人（観光客・ビジネスワーカー、居住者など）のほか、様々なバックボーンをもって、多くの人が滞在・活動しています。こうした人々がタイムリーに必要な情報を取得して都心生活を楽しむとともに、柔軟で自分らしい時間を過ごし、活発化に活動することで、都心千代田らしい多様な交流のなかで、豊かな文化や価値の創造されていくよう、活動の障壁の少ないユニバーサルな環境を充実させていきます。

イメージ写真

ICTと連動し、AI技術を活かした情報案内

都心における多言語対応

誰にもわかりやすい情報・サイン（ヒクトグラム等）＋柔軟な空間・施設、移動サービス等の利用（シェア）環境（オープンスペース、オフィス、コミュニティサイクルなど）

**まちづくり
の目標**

都心ならではの豊かな価値の創造にむけて、
ひと、まち、活動の多様性を活かせるユニバーサルな環境を
広げていく

- 人生 100 年時代に住み続けられる都心の価値の向上
- 人の多様性に対応して、障壁・境目を感じることなく活動できる環境づくりを推進

方針 1 都心に滞在するひとが多様なスタイルでつながり、自分らしく、
いきいきと活動・活躍できる環境をデザインしていきます

現行方針から継承する方針

強化するポイント（中間のまとめ）

- ◇ 人の多様性に対応した都心生活・移動・活動を支える
まちの情報環境の充実
- ◇ 多様な活動スタイルにあわせた柔軟な機能・空間・施
設とサービス利用環境の充実

方針 2 人生 100 年時代を見据え、家庭や地域で
自分らしく暮らし続けられる環境を充実させていきます

方針 3 都心ならではの豊かな環境を活かして、
子どもの成長を応援する環境を充実させていきます

現行方針から継承する方針

強化するポイント（中間のまとめ）

方針 2：
高齢者や障害者も安心して住み続けられる住宅や豊かに
暮らせるような福祉・保健・医療・教育施設を整備・充実
する

- ◇ 都心生活の安心と豊かさを感じることができる地域の施
設と公共性の高いサービスの連携・活用
(学校・保育、医療・福祉、スポーツ・健康等)

1	ライフステージに応じて永く、自分らしく住み続けられる住まい方を選択できる住宅・住環境整備	⇔	分野1 豊かな都心生活を実現する住環境の創出
	現行方針の継承のポイント ○公共住宅、民間住宅のバリアフリー化		強化するポイント（中間のまとめ） ◇保育園等の子育て支援施設や高齢者介護施設の誘導
2	子どもが安心して過ごせる居場所の充実 （公共施設、公園・緑地・広場・空地等の公共スペース）	⇔	分野2 緑と水辺がつながる良質な空間の創出
	現行方針の継承のポイント ○体験や学習、児童館、公園、児童遊園、緑と水辺などの自然と触れ合える場を整備・充実		強化するポイント（中間のまとめ） —
3	駅・主要な道路・公共施設等における誰もが安全に利用できる環境づくり （車椅子やシニアカー、ベビーカーの利用などを想定したバリアフリー化、わかりやすいサイン整備等）	⇔	分野4 道路・交通体系と快適な移動環境の整備
	現行方針の継承のポイント 方針1： だれもが社会に参加し、いきいきと暮らせるよう、活動しやすいまちをつくる ○鉄道駅のスロープ、エレベーター、エスカレーター ○地上と地下街・地下通路との移動 ○鉄道車両、ノンステップ・床低バス、リフト付タクシー ○歩車道の分離、車椅子の利用を前提とする広幅員の連続した歩道の確保 ○視覚障害者用ブロック、交通弱者用信号機 ○公共・公益施設の交通が便利で行きやすい場所への設置、機能的な複合化		強化するポイント（中間のまとめ） ◇健康寿命の延伸のため健康づくりに配慮した外出しやすく、歩きやすい道路環境の充実
4	都心に滞在するひとの多様性を考慮した安全確保 （高齢者、障害者、外国人等）	⇔	分野6 災害にしなやかに対応し、回復力の高い強靱なまちづくり
	現行方針の継承のポイント —		強化するポイント（中間のまとめ） ◇都心生活の安心と豊かさを感じることができる地域の施設と公共性の高いサービスの連携・活用 （都心で生活・滞在する人の多様性や大規模災害発生時の活用を想定した運用等）